

# 創刊にあたって

東海大学大学院文学研究科観光学専攻主任・教授

松本 亮三

東海大学大学院文学研究科観光学専攻（修士課程）は、2014年4月に設置された。文学研究科内では最も新しい専攻であり、その基礎となったのが、2010年4月に設置された観光学部である。観光学部は、「学士力」・「社会人基礎力」を身につけ、かつ、現代文明の要請に応え、人と社会と自然の共生を目指す本学建学の理念を生かしつつ、観光・サービス産業全体に貢献することができる創造的人材を輩出する」（「設置の趣旨等を記載した書類」、2009年文部科学省に提出）ことを目的に設立され、学部活動の基本を、観光に関わる総合的教育研究におくこととした。そのため、観光学部には観光学科1学科のみを置き、(1)観光文化、(2)サービス・マネジメント、(3)レジャー・レクリエーション、(4)地域デザインの4つの科目群に多様な授業科目を配し、学生に総合的な学修を勧めることで、わが国の観光立国に資することのできる人材を養成するとともに、このような試みを通じて、新しい観光学の体系を構築することを目指したのである。

2010年4月に観光学部に入学した第1期生は、上記の理念に従って学修を積み重ね、2014年3月に卒業した。本観光学専攻（修士課程）の開設時期を2014年4月としたのは、観光学部卒業後、さらに観光学の研究と学修を続けようとする学生を視野に入れたためであったが、もちろん、開設理由はそれだけに留まるものではない。「わが国が観光立国を推進し、観光・サービス産業を振興するために必要とされるのは、観光現象とそれに関連し、かつ影響を及ぼす多様な要因を、高度で総合的な学術的知見と確固たる方法論を身につけ、柔軟な思考力で調査・研究し、その成果を観光・サービス産業の発展に生かすことができる、研究力をもった人材の養成である。観光を主軸とした高度職業人の養成と、観光に関わる諸現象を学問的な対象として研究する基礎的能力をもった人材の育成が急務である」（「設置の趣旨等を記載した書類」、2013年文部科学省へ提出）という、わが国全体を視野に入れた広範な認識があったからである。

上に述べたような観光に関わる総合知の探究という目的のもと、本専攻の授業科目は、文明＝文化・社会的観点をもった「観光総合理論研究・演習」を基軸として、文理融合的視座をもった「観光システム理論研究・演習」、社会的観点をもった「観光社会理論研究・演習」、さらに、それぞれ経済的、経営的視点に特化した「観光経済社会理論研究・演習」と「観光経営社会理論研究・演習」の5つの科目群から構成されることとした。

2014年4月、本専攻には、観光学部出身者4名、学外出身者1名の計5名の学生が入学し、2016年3月に、5名全員が、様々な科目を履修して所定の単位を修得し、提出した修士論文も審査に合格して、修士課程を修了することになった。これを機に、観光学専攻創設以来懸案で

あった、機関誌『東海大学観光学研究』（年刊）を創刊することとした。創刊号である本号には、修士課程修了が確定した5名全員の修士論文の縮約版が収録されている。いずれも労作であり、本誌の紙幅を満たすに足ると確信したからである。

次号からも修士論文縮約版を本誌掲載論文の基調とするが、今後は、教員の論文や教員と学生の共著論文も併せて掲載し、一層の充実を図っていく所存である。関係各位には、ご指導ご叱正と共に、ご理解ご協力をお願いする次第である。

2016年3月